

総括表

氏 名	年 月 日生	男 女
住 所		
① 障害名(部位を明記)		
② 原因となった 疾病・外傷名	交通、労災、その他の事故、戦傷、戦災 自然災害、疾病、先天性、その他()	
③ 疾病・外傷発生年月日	年 月 日	場 所
④ 参考となる経過・現症(エックス線写真及び検査所見を含む。)		
		障害固定又は障害確定(推定) 年 月 日
⑤ 総合所見		
[将来再認定 要・不要] (再認定の時期 年 月)		
⑥ その他参考となる合併症状		
上記のとおり診断します。併せて以下の意見を付けます。		
年 月 日		
病院又は診療所の名称 所 在 地 診療担当科名 科 医師氏名		
身体障害者福祉法第15条第3項の意見〔障害程度等級についても参考意見を記入〕 障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に ・該当する (級相当) ・該当しない		
備考 1 障害名には現在起っている障害、例えば、両眼視力障害、両耳ろう、右上下肢麻痺、心臓機能障害等を記入し、原因となった疾病には、緑内障、先天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭窄等原因となった疾患名を記入してください。 2 歯科矯正治療等の適応の判断を要する症例については、「歯科医師による診断書・意見書」(別紙)を添付してください。 3 障害区分や等級決定のため、富山市社会福祉審議会から改めて次ページ以降の部分についてお問い合わせする場合があります。		

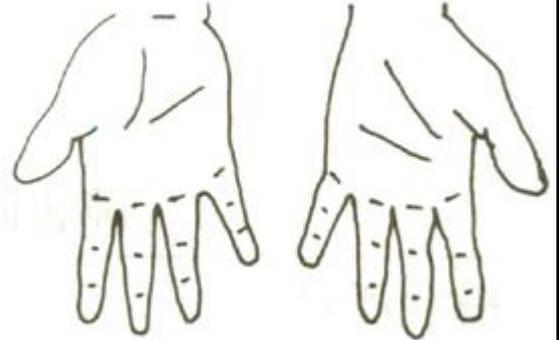
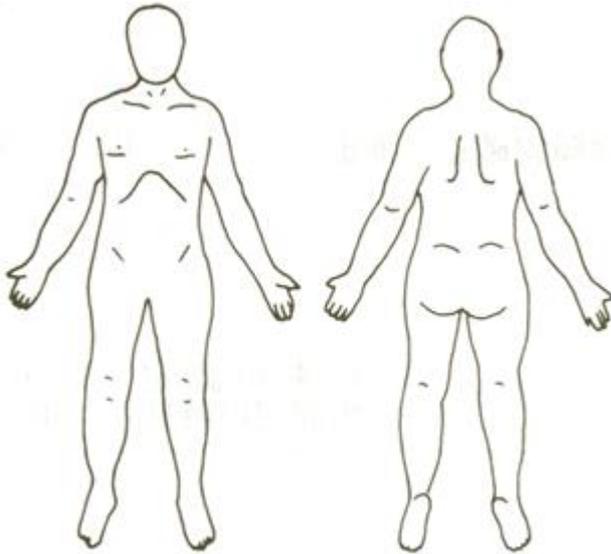
肢体不自由の状況及び所見

神経学的所見その他の機能障害(形態異常)の所見

(該当するものを○で囲み、下記の空欄に追加所見を記入してください。)

- 1 感覚障害(下記図示) : なし・感覚脱失・感覚鈍麻・異常感覚
- 2 運動障害(下記図示) : なし・弛緩性麻痺・痙性麻痺・固縮・不随意運動・しんせん・運動失調・その他
- 3 起因部位 : 脳・脊髄・末梢神経・筋肉・骨関節・その他
- 4 排尿・排便機能障害 : なし・あり
- 5 形態異常 : なし・あり

参 考 図 示



右		左
	上肢長 cm	
	下肢長 cm	
	上腕周径 cm	
	前腕周径 cm	
	大腿周径 cm	
	下腿周径 cm	
	握力kg	

×変形 ■切離断 ▨感覚障害 ▨運動障害

(注)関係ない部分は記入不要

動作・活動 自立—○ 半介助—△ 全介助又は不能—×、()の中のものを使う時は、それに○

寝返りする	シャツを着て脱ぐ	
足をなげ出して座る	ズボンをはいて脱ぐ(自助具)	
椅子に腰掛ける	ブラッシで歯を磨く(自助具)	
立つ(手すり、壁、杖、松葉杖、義肢、装具)	顔を洗いタオルでふく	
家の中の移動(壁、杖、松葉杖、義肢、装具、車椅子)	タオルを絞る	
洋式便器に座る	背中を洗う	
排せつの後始末をする	2階まで階段を上って下りる(手すり、杖、松葉杖)	
(はしで)食事をする(スプーン、自助具)	屋外を移動する(家の周辺程度)(杖、松葉杖、車椅子)	
コップで水を飲む	公共の乗物を利用する	

(注)身体障害者福祉法の等級は機能障害(impairment)のレベルで設定されますので、()の中に○が付いている場合、原則として自立していないという解釈になります。

計測法

上肢長 : 肩峰→橈骨茎状突起

前腕周径 : 最大周径

下肢長 : 上前腸骨棘→(脛骨)内果

大腿周径 : 膝蓋骨上縁上10cmの周径

上腕周径 : 最大周径

下腿周径 : 最大周径

(小児等の場合は別記)

関節可動域(ROM)と筋力テスト(MMT)(この表は、必要な部分を記入してください。)

筋力テスト()	関節可動域	筋力テスト()	関節可動域	筋力テスト()
↓	↓	↓ ↓	↓	↓
() 前屈	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	後屈()	頸()	() 左屈
() 前屈		後屈()	体幹()	() 右屈
右	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	() 伸屈	() 伸屈	左
() 外転		() 内転	() 内転	() 外転
() 外旋		() 内旋	() 内旋	() 外旋
() 屈曲		() 伸屈	() 伸屈	() 屈曲
() 回外		() 回内	前腕()	() 回内
() 掌屈		() 背屈	手()	() 背屈
() 屈曲		() 伸屈	() 母	() 伸屈
() 屈曲		() 伸屈	() 示	() 伸屈
() 屈曲		() 伸屈	() 中	() 伸屈
() 屈曲		() 伸屈	() 環	() 伸屈
() 屈曲		() 伸屈	() 小	() 伸屈
() 屈曲		() 伸屈	() 母	() 伸屈
() 屈曲		() 伸屈	() 示	() 伸屈
() 屈曲		() 伸屈	() 中	() 伸屈
() 屈曲		() 伸屈	() 環	() 伸屈
() 屈曲		() 伸屈	() 小	() 伸屈
() 屈曲	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	() 伸屈	() 伸屈	() 伸屈
() 外転		() 内転	() 内転	() 伸屈
() 外旋		() 内旋	() 内旋	() 伸屈
() 屈曲		() 伸屈	() 伸屈	() 伸屈
() 底屈		() 背屈	() 背屈	() 底屈

備考

注：

- 1 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。
- 2 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。
- 3 関節可動域の図示は、|←・→|のように両端に太線をひき、その間を矢印で結ぶ、強直の場合は、強直肢位に波線(〽)を引く。
- 4 筋力については、表()内に×△○印を記入する。
×印は、筋力が消失又は著減(筋力0、1、2該当)

△印は、筋力半減(筋力3該当)

○印は、筋力正常又はやや減(筋力4、5該当)

5 (PIP)の項母指は(IP)関節を指す。

6 DIPその他手指の対立内外転等の表示は必要に応じ備考欄を用いる。

7 図中のぬりつぶした部分は、参考的正常範囲外の部分で、反張膝等の異常可動はこの部分にはみ出し記入となる。

例示

